

女と男が ともに生きる未来へ

Step

Vol

2

CONTENTS

働くことをどう考えますか
女性の働き方のうつりかわり
Q&A パート103万円の壁

1

特集・父親の子育て
家族って何だろう？

3

健康の維持・増進は自分の手で

5

女性相談ってな～に

6

ジェンダー・ワード
アンペイド・ワーク

7

泉南市

働くことをどう考えますか？

女性の経済的自立を考える手がかりに、戦前から現在までの日本女性の働き方にもさまざまな変化があったことがわかります。

の女性の働き方を振り返ってみましょう。

戦前から

昭和20年代半ばまで

働く女性の半数以上が農業や漁業などに従事していました。農家の女性は農作業に加えて家事労働も担っており、負担は相当重かったと考えられます。

一方、明治の終わりごろから都市を中心に事務員、タイピスト、バスガール、教師や医師など、いわゆる職業婦人が見られるようになりました。

昭和初期からは、日本が長期の戦争状態に入り、男性の労働力が不足したので、女性も製造業などに動員され、女性の労働力率は一時的に上昇しました。

女 性 の 方

昭和30年代から
40年代半ばまで

昭和30年代からの経済の高度成長期には、夫はサラリーマンとして仕事に専念し、妻は家事を担うという性別役割分業の家庭が増えました。また、農業の割合が低くなったこともあって女性の労働力率は低下していきます。

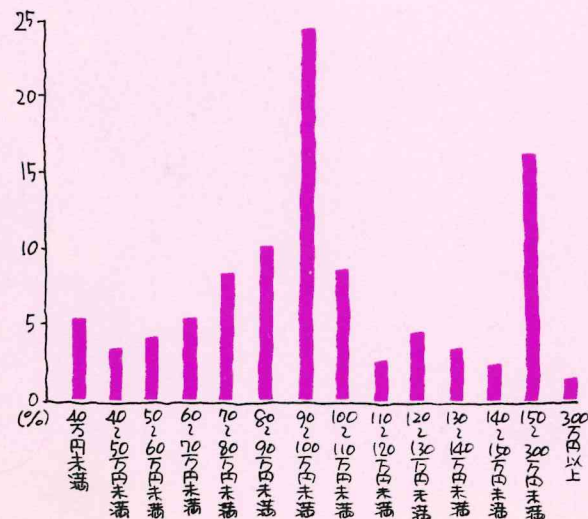
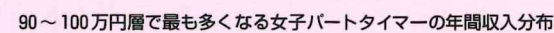
昭和50年代から
60年代まで”

この頃から、専業主婦だった女性たちが、近くの工場やスーパーマーケットなどでパートタイマーとして働きだしました。マイホームや、子どもの学費のための資金確保、女性の社会進出の意欲の高まり、企業側の要請などが重なって、既婚女性のパートタイム労働は拡大しました。

平成元年以降

平成4年には育児休業法が施行され、出産後も働き続ける女性が少しずつですが増えてきています。また最近では、企業の中で専門職や管理職になる女性や、医師や弁護士など専門職や資格職として働く女性が増えてきました。

う つ り か わ り



者“の地位にとどまることを自己選択させる
こうした制度は、女性パートタイマーの経済
的地位を低い水準にとどめるという役割を果
たしていると言える」（『女性論のフロンティ
ア』創元社）と述べておられます。

女性の働き方を考える時、目先の損得勘定
にとらわれるのではなく、生涯にわたる経済
的自立という視点で、「103万円の壁」を考
えてみる必要があるでしょう。ちなみに平成
9年版の『国民生活白書』は、女性の生涯賃金
について興味深い試算をしています。短大卒
の女性が20歳から働き、60歳で定年退職
した場合の生涯賃金は約2億3600万円。
出産で退職し再就職した場合の損失額は、就
業中断期間の損失、再就職による賃金の低下
分、退職金の減少分を合計すると約6300
万円。再就職がパートタイマーで年収が10
0万円にとどまったとすると損失額は約1億
8500万円に跳ね上がる、としています。

あなたは、この数字から何を感じますか。

1

女性の 経済的自立をめぐる

「パート103万円の壁」という言葉をよく耳にしますが、どういったものなのでしょうか？

A パートタイムで働く女性にとって、収入が103万円を超えるかどうかが大変気になるところです。なぜなら、給与と所得者の場合、年収が103万円を超えると所得税がかかり、130万円を越したあたりで、社会保険料を払うことになります。その上、夫の配偶者控除がなくなるとか、家族手当でがカットされるなど、妻の収入が103万円を超えると、妻自身の収入は減っていくのですが、「世帯収入」としては減ることになるのです。このことから「パート103万円の壁」という言葉が生まれました。

わが国の賃金制度や税制、社会保障制度は基本的に世帯単位で組み立てられており、「被扶養者」という立場にいれば経済的にメリツトがある仕組みになっています。こうした制度が女性の働き方にいかに大きな影響を及ぼしているかは、女性パートタイマーの年間収入が900～100万円のところで最も多くなっている（労働省「パートタイム労働者総合実態調査報告」1995年）（図参照）ことからわかります。経済学者の竹中恵美子さんは、女性のこうした状況を指して「自ら」被扶養

2



父親の子育て

—お父さん、子育てをいっしょに楽しみましょう—

家族ってなんだろう？

石川さんちの場合

まずは保育所の送り迎えから…

石川さんファミリーは、現在、均さんと堺市の保育所に保母として勤務するパートナー、そして3人の子ども（男・中2、男・小6、女・小3）の5人家族です。3人とも0歳から保育所に預けての共働き家族。以前、塗装業と塾の仕事（夜間）の両方をこなしていた時期も、仕事柄、均さんの方が融通が付きやすいので保育所の送迎をしていました。いまでは子どもの世話や家事の多くを引き受けています。

一番上の子どもが小さかった頃には、オンブして、ママコートを着て、自転車で保育所の送り迎えをしたとか。「カゼをひかせてはいけない。でも『カッコ悪い』と心の中で葛藤しながら、保育所につくと、「保母さんたちが一斉に注目するんですよ、男だから。恥ずかしかったなあ」。子どもたちが卒園した後でも「〇〇ちゃん、よく『おとうちゃん、おとうちゃん』って泣いちゃったねえ」と保育所時代の先生に言われる程、子どもたちの生活を支えていたのです。



「自分でせなしゃあないな」

「ボクも最初から全部していたわけじゃないんです。男は台所には入らない！という古い感覚を持っていたからね。雨が降ってきて、子どもや嫁さんの職場に傘を持って迎えに行くことはできるのに、家の中で料理をするというのは、ものすごく苦痛だった」と言います。でも、パートナーの帰りの遅い日が続くと、家族4人が何も食べないで待っているわけにはいなくなる。「それじゃあ、自分でせなしゃあないな、ということで作るようになったんですわ」。初めは簡単なものしか作れなかったのが、そのうちに何でも自在にできるようになったとか。「やっぱり嫁さんがえらいんかも知れないね。ボクの作った料理をけなさずに、とにかくホメてくれるんですよ」。

自分でやろうと決めると、自然に頭と体は動き始め、夕ご飯の用意は朝のうちにご飯を仕掛けておいて、保育所にお迎えに行くときに、ついでにスーパーに買物に行くと、段取りよくこなせるようになったそう

です。「人を頼るより、自分でできることは自分でするというのが基本やね」。

また、均さんがテキパキと家事をこなすのには、もう一つのわけがあります。「小さい頃、こまごまと家事をしている母親は、いつも家族みんなの団らんに入っていなかった。自分の家族では、みんながそろってゆっくりしたいなあ」。そんな思いから、「それならばよくやろうと思ったんです」。

家族（親）がいなくてもやっていける人間に育てる

「人に迷惑をかけない」「ものを大切にする」など石川ファミリーにはいくつかのルールがありますが、中でも大きな目標は、「困ったことが起きた時に、家族（親）がいなくてもやっていける人間に育てる」ということ。例えば、ある日の洗濯物取り入れのエピソード——朝はいい天気で洗濯日和。ところが夕方になってにわか雨。その時、部屋でゲームに夢中になっている子どもたちは、洗濯物のことなんか知らんぷり。と、そこにお父さんが帰って来て、一言。「雨が降ってきて暗くなったと思ったから、電気つけたんやろ？ 雨降ったら、お母さんやお父さんが干していった洗濯物はどうなると思う？」。

お互いを認め合うことから生まれる親子のつながり

いつも陽気で、時にはホッと尊敬できるお母さん。賢くて頼りになる存在のお父さん。子どもたちの両親に対するイメージです。親たちからは、子どもたちのことを「ほんまにいい子やねん」。

夕食が鍋物の日は、鍋をつつきながらとめどなく話がが続くという石川さん一家。このような父親と子のふれあいが、密度の濃いつながりをつくるヒケツかなと感じました。

石川均さん(39歳) ● 泉南市在住。主に自給自足のための畑仕事をしながら、実家の塗装業も手伝う。保育所での父母の会や小学校などのPTA活動にも積極的に参加。

『男がみえてくる自分探しの100冊』

中村彰・中村正編 かもがわ出版 1997年

21世紀を目前に、日本は不安の時代に入れた。政治、雇用、教育、家族などの揺らぎとともに、「男」とは何だろうと、男性たちは自らのあり方を問い直し始めている。この本では、こうした男性たちの「自分探し」のきっかけになる100冊の本を紹介。

父親として、夫として、また職業人として、もう一度自分を見つめ直したい時、ヒントになる本がたくさん取り上げられている。

男のための男の手による育児書。「協力」ではなく、「共同」で、妊娠・出産・育児に関わりたいたいと考えている男性にはうってつけ。とは言え、いままで家事などやったことのない男性が、突如「育児の達人」になれるわけもなく、基本的な家事のやり方についていていねいな解説がついている。

子育てが、男性の生活自立や女性とのパートナーシップに、深い関わりがあると気付かせてくれる子育ての実践的指南書である。

『男の育児書』

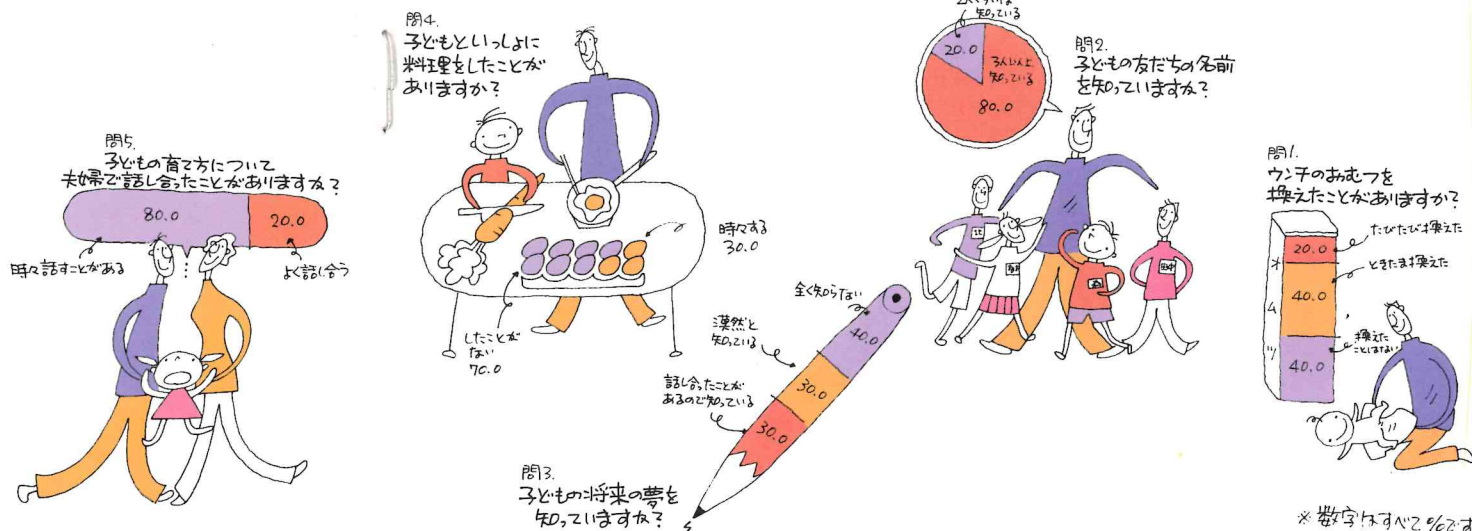
男の子育てを考える会編 現代書館 1995年



お父さんへのお勧め読本



お父さん、いっしょにやろうよ
泉南在住で3歳から小学生の子どものいるお父さん10人に育児への関わりについてたずねてみました。
その結果、「ウンチのおむつを換えたことがある」と答えた人は10人中6人、「子どもの友だちの名前を3人以上知っている」という人は10人中8人でした。しかし、「子どもといっしょに料理をしたこと」は10人中7人が「ない」と答え、家事を通してのコミュニケーションの少なさをうかがわれます。
また、「子どもの将来の夢」について、「知っている」「漠然と知っている」が各々3人ずつ、「全く知らない」人が4人。「子どもの育て方について夫婦で話し合う」ことについては、「時々話すことがある」が10人中8人という結果が出ました。
子どもやパートナーとのコミュニケーションには、「会話」は大きな役割を果たします。今夜あたり、テレビのスイッチを切って世間話で盛り上がりませんか？



30~40歳代のお父さん10人に聞きました
父親の子育て参加アンケート

健康の維持・増進は自分の手で

病気を治すのは自分自身

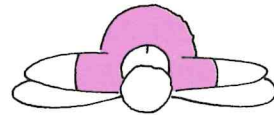
女性の半数以上が85歳を、男性も半数が80歳を超えて生きることができるようになりました。寿命を全うし、95歳前後まで生きる人も多くなってきております。しかし、一方では病気や体調不良に悩んでいる人も多くみられます。男性に比べ、女性の方が長寿者が多いのですが、寝たきりや痴呆などの状態を長く続ける人も多くなります。できることなら90歳近くまで元気で過ごし、短い子どもがえりの時期を経て、あまり苦痛のないお迎えがほしいものです。そのためには中年期以前から自分の手で健康管理、老化防止を心がけなければいけません。病気は医者で治すものと考えている人が結構いますが、医者の力が及ぶのはごく一部であって、本当に病気を直すのはその人の中にある自然治癒力、治そうとする気力、正しい養生の積み重ね以外の何ものでもありません。

生活習慣や体質と関係が深い慢性的疾患

高血圧症や糖尿病、骨粗しょう症、脳卒中、痴呆など中年期から老年期に多くみられる慢性的な病気の多くは、それまでの生活習慣や体質と関係が深いと言われています。更年期障害や自律神経失調症、初老期うつ病などは中年期から初老期の女性にみられやすく、その人のおかれている環境や性格、心のもち方と関係があります。ですから、これらの病気の予防や治療は短期間の摂生だけでは難しいのです。中高年期を健康に過ごしたいと願う人は、健康な長寿をなぜ願うのかを、一度問い直してみましょ。人生の後半期をどのように過ごすかをゆっくり考えてみましょう。何かしたいことや、楽しみを持っていないと、摂生をずっと続けることが難しくなります。

【合せき前屈】

1. 両足裏を合わせ、かかとを引き寄せる。
2. つま先に手を置き、息を吸いながら背筋をまっすぐにする。
3. 息を吐きながら腹を押し出し、胸とあごで弧を描くように前屈し、ひじ、額の順に床につける。
4. このポーズを10～20秒、自然呼吸をしながら保つ。
5. 息を吸いながら頭を前に押し出し、すくいあげるように背骨を1本1本立てるようにしながら戻り、腰を立て、背筋を伸ばして息を吐く。



効果：下腹部の血液循環をよくするので、卵巣機能を高め、子宮筋腫・月経痛・月経不順などの婦人科疾患に効果的。

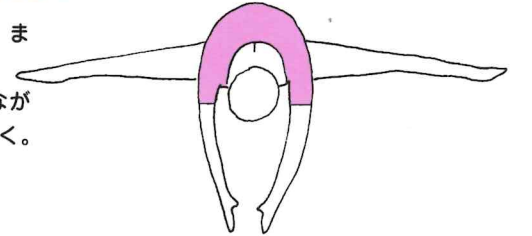
簡単にできるストレッチ体操

大切な日常生活での摂生

先にあげたどの病気でも日常生活上の摂生の仕方はよく似ています。その第一は、規則正しい生活と適切な運動、食養生、体重のコントロールなどです。一日一万歩運動や自分に合った柔軟体操、ストレッチ体操などは、骨量の増加をもたらすと同時に筋肉や神経にも作用し、転倒や骨折を予防します。体重を適切に保つことで膝や腰を守り、全身的な病気である糖尿病や高血圧症の改善にも役立ちます。食養生としては、栄養のバランスを考え色々なものをいただき、多く食べ過ぎないこと、甘いものや炭水化物は控えめにすること、味付けを淡くすること、タンパク質、繊維類（野菜や果物、海藻類、きのこ類など）を十分摂ることが勧められます。その第二は気持ちの安定と生に対する意欲です。中高年期に穏やかな気持ちを持ち続けることはなかなか難しいのですが、自然現象としての老いを受入れ、孤独をも楽しめるような余裕をもてるようにしたいものです。

【開脚前屈】

1. 両脚を左右にできるだけ大きく開き、まっすぐに伸ばす。
2. 手の平を正面の床に置き、息を吐きながら前方へすべらせていき、前屈していく。自然呼吸でそのポーズを保つ。



効果：足の内側の筋肉をのばし、ホルモンの分泌を高めます。

関西福祉大学教授 小林 敏子

経歴：京都府立身障センター嘱託勤務・大阪市立弘済院附属病院副院長等を経て現在は関西福祉大学教授
著書：『痴呆性老人の心理と対応』（共著）『アルツハイマー病介護マニュアル』（監訳）など



やりたいことを見つけ、人生に関心を

そのためには、若いときから、その時々を十分に生きておくことも大切でしょうし、中年期からでもまだ十分時間はあるのですから、ほんとうにやりたいことを見つけ、人生に対して関心を持ち続けることが必要です。更年期障害や自律神経失調症は無理に治そうとあせらないで、時の経過に身をまかせ、食べることに休むことをして待ちましょ。何らかのきっかけで気持ちが穏やかになりますと、次第に日常生活にはりが出てきて、いつのまにか軽快します。自然の流れに身をまかせ、生かされていることに感謝し、生きることに関心を持ち続けることが大切だと思います。

『女性相談』ってな～に

泉南市「女性相談」担当
「ウイメンズセンター大阪」
カウンセラー

阿古安子



女性相談

人付き合いが苦手で人間関係がうまくいかない、育児や家庭内の問題で悩んでいる、離婚したいけれど先が不安で決心できない等、女性が日々の生活の中で直面する問題は様々です。

女性相談は、そんな悩みや怒りを打ち明けられる場。自分の気持ちを素直に表現していいのです。ひとりで悩まないで、まずお電話下さい。女性カウンセラー 阿古安子さんが、あなたの立場にたって相談にあたります。

相談日時○毎月第2水曜日／午後6時～9時
第4金曜日／午後1時～4時
（相談時間は一人1時間程度）
相談場所○泉南市樽井公民館3階・控室
（秘密厳守・相談料は無料です）

申込み方法○電話予約してください。
予約・お問合わせ先○泉南市役所人権啓発課
83-0001



問題はどんなことでも結構です。人との付き合い、自分の性格、仕事、夫の浮気、嫁姑の関係、親子関係、子育て、その他自分らしんどいと思っていること。カウンセリングの中で、女性の心とからだを通して女性の生き方を考えていきたいと思います。

あなたが自分の気持ちを素直に表現しながら、今、困っていることと向き合ってみませんか？ 八方塞がりになった時、戸惑ったり落ちこんだりした時、人の力を借りて人生をもう一度考え直してみるのもいいものです。自分を責めるだけではなく、不安の対象をハッキリさせ、理由を考えていき、その心の動きにつき合っていく、少し時間がかかるけれども、自分に力をつけるために踏み止まってみる、そんな出会いをしてみませんか。

私たちは女性は、年齢や生活、考え方が違っても同じように自分のからだや心に悩みや不安を経験しています。それは、女性が自分の怒りや主張を封じ込め、誰かと誰かが関係を結んでいく調節機能の役割を果たす場所に、いつも身を置いていくからなのです。社会や家庭の中で女性が味わっている人間関係のしんどさ、つらさは、違いがあっても女性同士の話を重ねあわせていくと共通したところが見えてきます。

泉南市の「女性相談」には、昨年の4月から関わっています。期間は短いのですが、相談内容からは、泉南で生活をしてこられた女性ならではの歴史が感じられます。あなたの悩みは、あなただけのことでいいし、あなたが自身がつまらないうちでいいし、あなたが一番大事なことに気づいているのです。

アンペイド・ワーク



ジェンダー

ワード

unpaid work



朝、誰よりも早く起きて夫や子どもの食事の支度。食べさせ、会社や学校に送りだし、後片づけ、洗濯、掃除。ほっとする間もなく、PTAの役員会へ。議題は子どもの非行をどうするか。名案が出るわけもなく、家へ帰ったら午後の2時。遅昼を残りのもので済ませ、自転車で夕食の買物に近所のスーパーへ。帰り、周り道をして一人暮らしの姑の家へ頼まれていた夕食の材料を届け、30分ばかり話し相手をする。4時を過ぎると冬の日差しは夕暮れの気配。あわてて洗濯物を取り入れ、気になっていた植木の霜よけをする。塾へ行く子どものために軽食の用意。夫、子どもの食事時間はバラバラ。全てが終わったのは11時半。明日は、当番でゴミステーションの掃除、姑を病院まで車で送る手伝い。明後日は手話通訳のボランティアで公民館へ。

以上は、A子さん—40歳、夫・子ども2人—の平均的な一日です。その労働時間は働いている人とそんなに変わりません。でも、A子さんのこうした労働は全く無報酬です。家の外で働けば有償の労働も、家庭で家族のためや、地域のために働いていることに対する報酬はありません。その他、農家や商店の家族従業者にみられる賃金の見返りのない労働などを含めて「アンペイド・ワーク (UNPAID WORK)」という言葉が使われるようになりました。

アンペイド・ワークが主として女性の役割となっている結果、経済力のある男性と、ない女性という性による不均衡がもたらされているのです。無償労働を経済統計に反映させようという声に押されて1997年5月に経済企画庁が発表した専業主婦の無償労働の評価額は、年額276万円でした。しかし、これによって無償労働が有償になったわけではありません。有償労働と無償労働の両方を男女が共に担い合う男女協働社会を一日も早く実現させる必要があります。

(注)ジェンダーとは文化的・社会的に作られた性別・性差のことです。



●主なできごと(平成9年度)

平成9年	5/9～7/11	女性問題アドバイザー養成講座(全10回)
	5/14	女性相談開設
	6/17～11/7	「女性フォーラム企画会議」(全6回)
	7/5	女性シネマフォーラム'97
	11/8	女性フォーラム'97
	11/11～12/17	「女性問題に関する職員意識調査」検討委員会(全3回)
平成10年	1/5～	「女性問題に関する職員意識調査」実施・分析

編集後記

今年の国民生活白書のテーマは「働く女性」。これまで取りあげたことがなかった女性労働を分析した点は、画期的なことです。そこで、「Step Vol.2」では女性の働き方について考える内容にしてみました。ご意見・ご感想等をお聞かせ下さい。

タイトル

タイトルの「Step」は、男女共同参画社会を目指して一歩ずつ前進しようという意味を表しています

●編集・発行／泉南市人権啓発課

〒590-0592 泉南市樽井一丁目1番1号 ☎ 0724 (83) 0001

制作/(株)アトリエF ●デザイン・イラスト/森田興子

